

Canon

RF

35mm F1.8 MACRO IS STM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF35mm F1.8 MACRO IS STMは、EOS Rシリーズカメラ用のマクロレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- STMはStepping Motor（ステッピングモーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

 **注意** 傷害を負う可能性がある内容です。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れるとやけどやけがの原因となります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

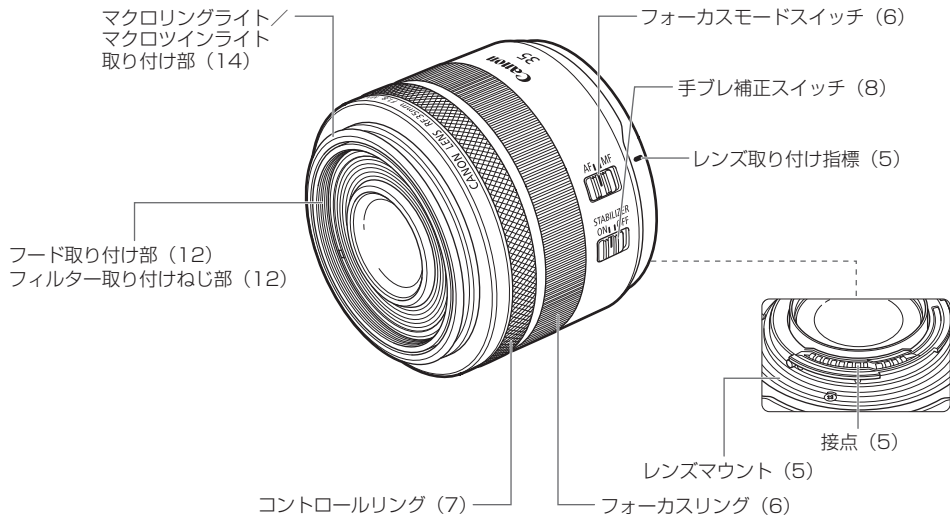
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

カメラがオートパワーオフ状態から撮影準備状態に復帰したとき、AF/MFにかかわらずレンズ先端が動き、フォーカスレンズの初期リセットが行われます。

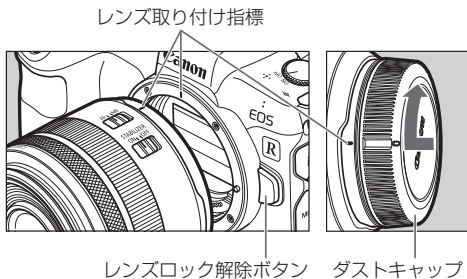
- 初期リセットが完了するまで、撮影をお待ちください。
- オートパワーオフ状態から復帰したときは、ピント合わせを再度行ってください。
- 撮影準備状態でピント位置を保持するときは、カメラの設定で [オートパワーオフ] を [しない] に設定してください。

各部の名称



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

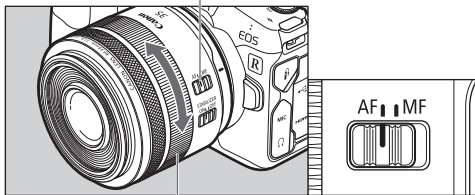
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
- カメラの電源スイッチをOFFにしたとき、前方に繰り出されているフォーカスレンズは、自動的に収納されます*。レンズを取り外すときは、レンズの収納が完了するまでお待ちください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。

* カメラ側のレンズ収納の設定がONの場合。

2. フォーカスモードの選択

フォーカスモードスイッチ



フォーカスリング

オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチを AF にします。
マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチを MF にし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。



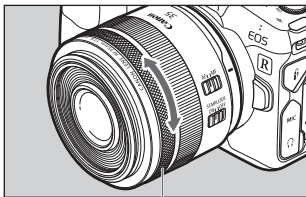
- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- 制御上の特性により、気温の変化や姿勢差によりフォーカスレンズの駆動速度が変化する場合があります。
- フォーカスレンズの作動中にレンズ前面の作動部分には触れないでください。作動部分に外力が加わると、フォーカスレンズの位置を制御上の正しい位置にもどすため、レンズの初期化の動作が行われることがあります。



- このレンズのフォーカスリングは電子式です。
- カメラの AF 動作が [ONE SHOT] のとき、AF のあとシャッターボタン半押し状態で、マニュアルフォーカスができます。(フルタイムマニュアルフォーカス)
ただし、カメラの設定変更が必要です。

3. コントロールリング

コントロールリングは、シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てて使います。



コントロールリング

コントロールリングは回すとクリックがあり、回した量分かるようになっています。コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。



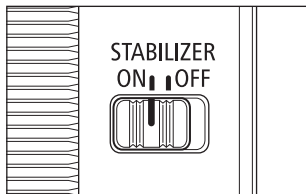
- コントロールリングの操作音は動画撮影中に録音されることがあります。



- キヤノンサービスセンターで、コントロールリングのクリックを無くすことができます。(有料)

4. 手ブレ補正機能

撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮り、近接（マクロ）撮影など）に応じた手ブレ補正を行います。



手ブレ補正機能を使用するときは、手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

- 撮影距離が短くなるにしたがい、手ブレ補正効果は低下します。
- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況



- 自動車や鉄道などの流し撮り

5. 手持ちによる近接（マクロ）撮影について

このレンズは無限遠の撮影から0.5倍までの近接（マクロ）撮影ができます。

カメラをしっかり構える

近接（マクロ）撮影を手持ちで行うときは、右のイラストのようにカメラをしっかり構えて手ブレやピント移動をできるだけ少なくして慎重に撮影してください。

サーボAFで撮影する

近接（マクロ）撮影では、カメラのAF動作を[サーボAF]に設定して撮影することをおすすめします。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。

● 近接（マクロ）撮影では、次のことに注意が必要です。

- 一般撮影よりも手ブレの影響が大きくなるため、手ブレ補正効果は少なくなります。
- 被写界深度が極めて浅くなるうえ、カメラの前後方向の動きにより、ピント移動が生じます。

● 最短撮影距離（被写体から撮像面までの距離）は0.17mです。なおワーキングディスタンス（レンズ先端から被写体までの距離）は、70mmです。



両ひじを、机などで支えてください。



カメラやレンズを持った腕のひじを、ひざで支えてください。



しっかりした壁などで、体と腕を支えてください。

6. 近接（マクロ）撮影時の露出

露出の決め方

TTL測光により撮影するときは、レンズを透過した光の量を測るため、露出補正の必要はありません。すべての撮影距離で、TTL測光によりAE（自動露出）撮影ができます。任意の撮影モードを選択し、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影倍率と実効FNo.

カメラに表示される絞り数値は、ピントが無限遠（ ∞ ）のときの数値です。実際の絞り（実効FNo.）は、撮影距離が近づく（撮影倍率が高くなる）にしたがって暗く（実効FNo.数値が大きくなる）になります。これは一般撮影の領域では露出にほとんど影響はありませんが、近接（マクロ）撮影の場合、実効FNo.の変化は無視できません。

単体露出計を使用して露出を決めるときは、次の露出倍数を加えて撮影してください。

撮影倍率	1:5	1:3	1:2
撮影距離 (m)	0.27	0.20	0.17
実効FNo.	2.1	2.2	2.4
露出倍数 (段) *	+1/3	+2/3	+1
	+1/2	+1/2	+1

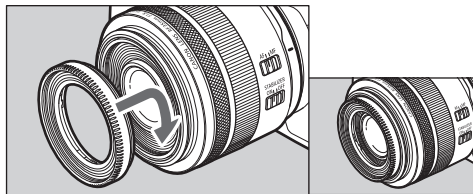
* 上段：1/3段表示 下段：1/2段表示



- 近接（マクロ）撮影の適正露出の決定には、被写体条件が大きく影響します。そのため、できるだけ露出を変えて撮影するか、撮影画像をカメラの液晶モニターで確認しながら撮影することをおすすめします。
- 近接（マクロ）撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE（Av）またはマニュアル露出（M）をおすすめします。

7. フード（別売）

専用のフードは、不要な光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードは、レンズ先端のねじ部に正しくしっかりと取り付けます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付け取り外しは、カメラの電源をOFFにしてから行ってください。

8. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端またはフード先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。

- フィルターは1枚のみ使えます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C Bを使ってください。
- フィルターの取り付け取り外しは、カメラの電源をOFFにしてから行ってください。

9. クローズアップレンズ (別売)

クローズアップレンズ250D/500Dを使うと、より近づいて大きく撮影できます。撮影倍率は次のようになります。

- 250D : 0.14 ~ 0.62倍
- 500D : 0.07 ~ 0.56倍



● 正確なピント合わせにはMFをおすすめします。

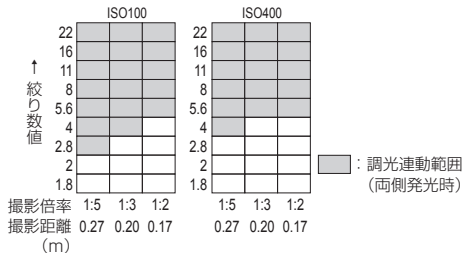
10. 接写専用ストロボ（別売）

キヤノンマクロリングライトストロボ MR-14EX II またはマクロツインライト MT-26EX-RT を使用して、E-TTL II 自動調光による 0.5 倍までの近接ストロボ撮影を行うことができます。

- 接写専用ストロボとフィルターを併用するときは、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部にフィルターを取り付けた状態で、発光部をレンズに取り付けてください。
 - 接写専用ストロボ側にフィルターを取り付けると、レンズ先端とフィルターが接触してピント合わせができません。またフィルターに傷が付いたり、レンズが故障する恐れがあります。
- MR-14EX II または MT-26EX-RT の使い方などについては、それぞれの使用説明書を参照してください。

■ MR-14EX II を使用した場合

・ 調光連動範囲の目安



■ MT-26EX-RT を使用した場合

MT-26EX-RT の調光連動範囲は、発光部の設定位置により、その範囲が大きく異なります。

- 露出がオーバーになる場合は、ディフューザーアダプターを併用したり ISO 感度の数値を小さく設定したり、絞りを絞るなどして撮影してください。

主な仕様

焦点距離・明るさ	35mm F1.8
レンズ構成	9群11枚
最小絞り	F22
画角	水平54°、垂直38°、対角63°
最短撮影距離	0.17m
最大撮影倍率	0.5倍
画界	約72×48mm (0.17m時)
フィルター径	52mm
最大径×長さ	74.4×62.8mm
質量	約305g
フード	EW-52 (別売)
レンズキャップ	E-52 II
ケース	LP1016 (別売)

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+23.9mmになります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ
canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00

(1/1～3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-2111-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon